

2018年11月7日

ウッドソリューション・ネットワーク  
(事務局：農林中央金庫)

## ウッドデザイン賞2018を受賞

木材利用拡大に向けた各種課題解決を目的としたウッドソリューション・ネットワーク（事務局：農林中央金庫）の設立・活動実績が、10月25日（木）に発表されたウッドデザイン賞運営事務局（後援：林野庁）主催の「ウッドデザイン賞2018」を受賞いたしました。

### ○受賞作品名

『国産材利活用拡大に向けたウッドソリューション・ネットワーク設立・活動』

### ○受賞部門

『ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野』

#### 【概要】

ウッドソリューション・ネットワークは、林業関連団体の代表や、加工・流通を担う製材会社・商社・ハウスメーカー等、木材関連産業の幅広い企業・団体の参加を得て、2016年10月に設立されました。山で木を伐採する生産から、住宅や家具等、木を材料として利用するまでの「木」のバリューチェーン全体を俯瞰し、各行程におけるさまざまな課題を解決していくことを通じて、国産材を主体に広く木材利用拡大を目指しております。農林中央金庫が事務局を務め、2018年10月現在、27社・団体に活動しております。

### ○ウッドデザイン賞について

ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取組について、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する新しい顕彰制度です。これによって、“木のある豊かな暮らし”が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的としています。

第4回目となる今回は全国から393点の応募があり、ウッドソリューション・ネットワークは全受賞作189点の一つに選ばれたものです。



JAPAN WOOD DESIGN  
AWARD 2018

※ 添付資料：ウッドソリューション・ネットワークについて

【本件に関するお問い合わせ先】

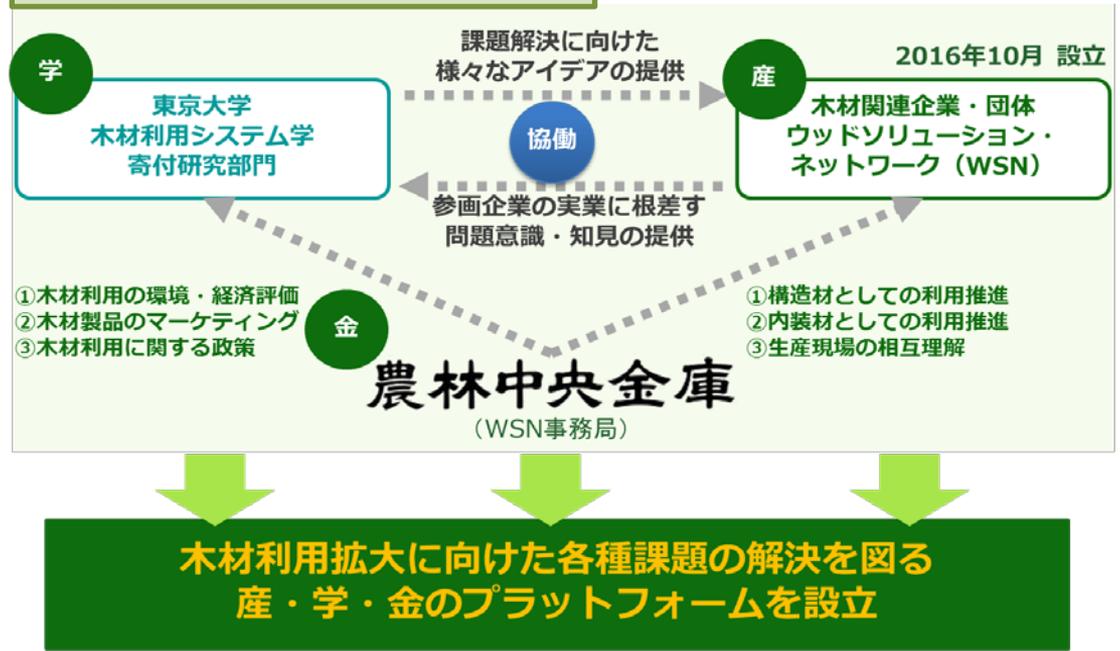
農林中央金庫 広報 CSR 企画室（島田、大谷）TEL:03-5222-2017

# ウッドソリューション・ネットワークについて

## 設立の背景・経緯等

- ◆戦後に植林された木は伐期が到来。一方、人口減少に伴う住宅着工戸数の減少等により木材需要の大きな回復は見込みにくいことから、木材利用の用途拡大が急務と認識。
- ◆農林中央金庫は、2016年10月、東京大学への寄付を通じた「木材利用システム学寄付研究部門」の設立支援と併せ、森林・林業・木材産業の一層の発展を願う関連企業等が参画した「**ウッドソリューション・ネットワーク(WSN)**」を設立。
- ◆林業生産者団体や、木の加工・流通に従事する製材会社、商社、ゼネコン、ハウスメーカー等、木に関わる27の関連企業・団体に構成。木材利用拡大に向けた各種課題解決を図るべく取組中。

## 産・学・金連携のプラットフォーム構築



## 3つの分科会

WSNでは、①非住宅分野における**構造材**としての木材利用推進分科会、②非住宅分野における**内装材**としての木材利用推進分科会、③生産現場と需要側の**相互理解**深化・推進分科会の3つの分科会にて木材利用拡大に向けた各種課題解決に取り組中。

### 構造材分科会

・木材の「利用量」の観点から、非住宅構造材としての利用意義が大きいことを背景に設置。国内の中大規模木造物件を視察し、中大規模木造建築推進のための課題を明確化したうえで、課題解決に資するアプローチブック(施主向けを想定)の制作に着手。

### 内装材分科会

・構造材としての利用に量的には及ばないものの、ユーザーへの「木の良さの訴求」という観点から家具・内装としての利用意義が大きいことを背景に設置。都市部での木材利用を志向し、オフィス家具メーカーが協働した「木製オフィス家具試作」、内装の木質化を施主に提案できるクリエイターを増やすための「木質空間デザイン・アプローチブック制作(2018年10月18日発行)」に取り組む。

### 相互理解分科会

・川上企業から川中・川下企業へのプレゼンテーションや、川上の現場視察を通じ、川上の現状を理解・共有化。木材供給バリューチェーンの理解深化を通じて、木材の利用拡大に資する取組みとすることを検討中。

